

神奈川県と横須賀市が主催する

9・16「ビッグレスキューかながわ」に関する声明

2012年9月14日

日本共産党神奈川県委員会

神奈川県と横須賀市が主催する「ビッグレスキューかながわ」（平成24年度神奈川県・横須賀市合同総合防災訓練）が、9月16日、陸上自衛隊武山駐屯地を中心として開催される。その目的は「大規模災害発生時の初動対応における救急医療等を主体とした実践的訓練を通じ、自衛隊医療関係部隊と県医療関係組織等との連携の強化を図るとともに、自主防災組織を中心とした地域防災力の強化と防災意識の高揚を図る」という発表である。訓練想定は、三浦半島断層群地震、地震規模マグニチュード7.2、最大震度6強である。参加・協力機関は、県内市町村、消防本部、県警察本部、自衛隊、医療関係機関など多数参加し、しかも在日米軍も入っている。

今回の訓練について、日本共産党神奈川県委員会として以下の問題点を指摘する。

私達は、3・11東日本大震災の経験から、また今後、起こるであろう巨大地震発生とその対応を、神奈川県と自治体が真剣な取り組みをすることは当然であると考えます。

そして、大規模災害を予想し、「医療救護に特化」「全国にもあまり例がない」（8月28日黒岩祐治知事記者会見）訓練の場合でも、住民の生命と財産を守るべき国と自治体、消防・警察、地域の病院などが中心となってい、その上で自衛隊などの支援を求めることが基本である。

しかし、今回の「ビッグレスキューかながわ」は、県医療救護本部が自衛隊基地内におかれるなど自衛隊が主役で、自衛隊の大規模災害の対処能力訓練に、自治体と消防・警察、地域の病院などを協力参加させるという、本末転倒の枠組みであることを指摘せざるをえない。

その上で、訓練想定である三浦半島断層群地震、マグニチュード7.2、最大震度6強が起こった場合、私達が一番危惧するのは、横須賀港に1年の大半停泊する米原子力空母ジョージ・ワシントンや、毎月のように入港する原子力艦船の地震・津波による原子力災害事故である。政府と東京電力の「安全神話」で重大事故を起こした3・11福島原発事故から間もない中、神奈川県・横須賀市がそうした想定にたった大規模災害訓練こそ行うべきである。

私達は、大規模災害を予想した訓練は、国と自治体、住民が中心になって行うことを強く求めるものである。

以上